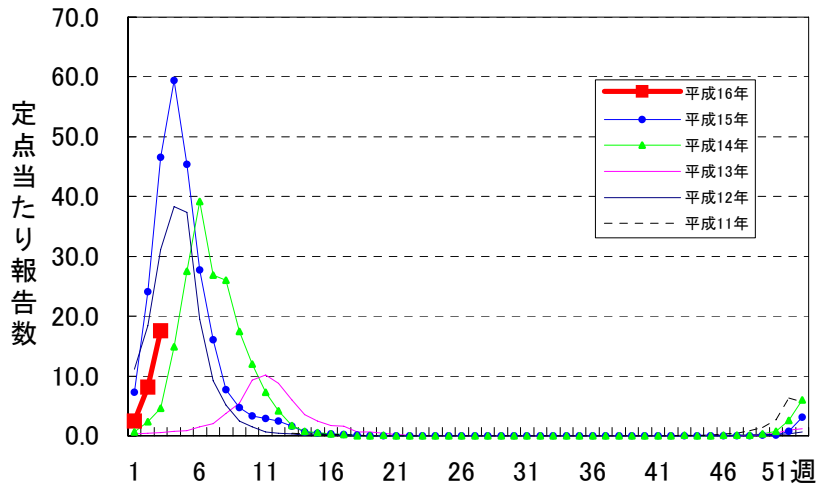


流行状況

インフルエンザ



疾患名	前週	今週	備考
<u>インフルエンザ</u>	8.1 ▲	17.6 ▲	インフルエンザウイルスによる急性感染症で高熱、四肢疼痛、頭痛、全身倦怠感、食欲不振を主症状とする
<u>感染性胃腸炎</u>	8.1 ▲	6.6 ▼	細菌あるいはウイルスなどの感染性病原体による嘔吐、下痢症
<u>水痘</u>	3.9 ▲	2.2 ▼	「みずぼうそう」とも呼ばれ、ウイルスが原因で発生する人から人にうつる感染症

定点当たり報告数	定点当たり報告数	定点当たり報告数
▼ 減少	→ 横ばい	▲ 増加

感染症についての説明及びグラフ総覧については、
愛知県衛生研究所のホームページをご覧ください。

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>)

トピックス

● 愛知県内の 4 保健所(豊田市、春日井、衣浦東部、津島)管内でインフルエンザ警報(健康福祉部健康対策課が報道発表)

<http://www.pref.aichi.jp/service/kisya/>

愛知県では感染症法に基づき県内 195 医療機関を定点としてインフルエンザの発生動向調査を実施していますが、平成 16 年第 3 週(1 月 12 日(月)から 1 月 18 日(日)まで)における県内 4 保健所管内の定点あたりインフルエンザ報告数は 30 を超過しました(詳しくは次ページのインフルエンザの保健所別報告数の推移をご覧ください)。この数値は国立感染症研究所の「注意報・警報システム」中で警報の指標と定められている「定点あたり報告数が 30 以上」に該当します。

今期のインフルエンザは本格的な流行期に入り、患者数が増加するものと予想されます。予防法等については衛生研究所ホームページ

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/influ.html> をご覧ください。

● インフルエンザウイルス分離状況とインフルエンザ様疾患の集団患者発生状況について

【平成 16 年 1 月 21 日現在】

1 月 21 日現在、表に示すとおり、感染発生動向調査の目的で定点医療機関等から県衛生研究所に搬入された 34 検体から A 香港型インフルエンザウイルス 21 株、B 型インフルエンザウイルス 1 株が分離されています。集団発生については、1 月 13 日に瀬戸保健所管内の小学校で発生した事例から 8 検体が搬入され、A 香港型インフルエンザウイルス 1 株が分離されています。現在、4 施設(師勝保健所管内小学校、豊橋市保健所管内小学校、加茂保健所管内中学校、知多保健所管内小学校)から 34 検体が搬入されており検査中です。

抗原性は A 香港型についてはすべて今冬(2003/2004 シーズン)のワクチン株の A/パナマ/2007/99 に類似していましたが、アメリカやヨーロッパで流行を起こしている福健タイプの A/熊本/102/02 とも類似していました。B 型は今冬のワクチン株と異なる山形系統でした。また、公表されている最新のデータである平成 16 年 1 月 16 日現在の資料では、全国で A 香港型 162 株、A ソ連型 1 株、B 型 15 株が検出されています。

以上のインフルエンザウイルス分離状況から、今シーズンの流行は A 香港型が主流を占めています。

インフルエンザ

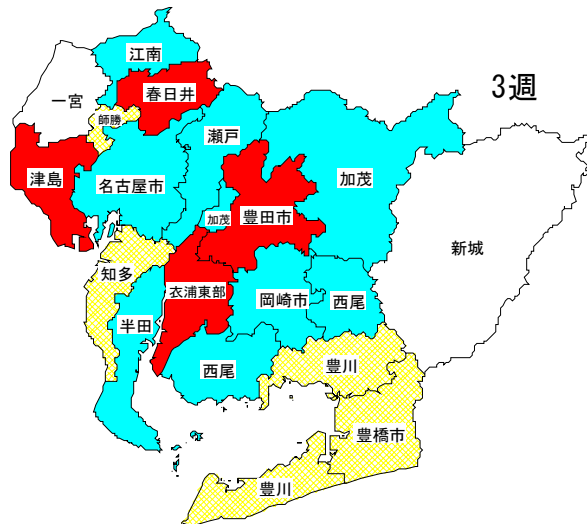
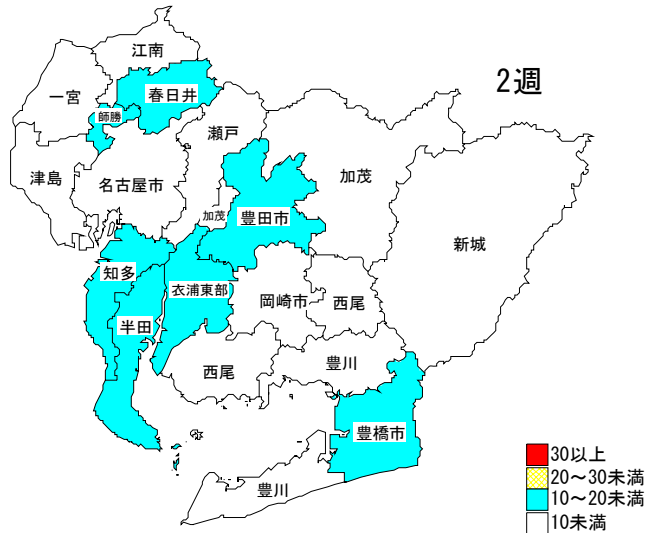
発生動向調査	11月	12月	1月	合計
検体数	1	14	19	34
A 香港型	1	5	15	21
B 型		1		1

集団発生	1月	合計
検体数	42	42
A 香港型	1	1

今冬の愛知県(名古屋市等も含める)でのインフルエンザ様疾患の集団発生は 1 月 21 日現在、学級閉鎖等の防疫措置を受けた施設数 29 施設(前年同期 56 施設)、患者数は 988 名(前年同期 1,624 名)、欠席者数 555 名(前年同期 976 名)となっております。また、全国では、平成 15 年 11 月 2 日 ~ 平成 16 年 1 月 10 日の期間に防疫措置を受けた施設数 143 施設(前年同期 479 施設)、患者数 6,348 名(前年同期 18,514 名)、欠席者数 2,753 名(前年同期 9,605 名)と集団発生に関連した患者数などについて、愛知県では前年の 2/3、全国では前年の 1/3 程度となっております。

しかしながら、今冬におけるインフルエンザの流行開始が昨年より遅く、これから流行のピークとなることが予想されるため、今しばらく注意が必要です。

インフルエンザの保健所別報告数の推移（名古屋市含む）



		3週	定点 当たり	2週	定点 当たり			3週	定点 当たり	2週	定点 当たり
名古屋市	△	802	11.5	410	5.9	岡崎市	△	150	13.6	49	4.5
瀬戸	△	165	18.3	70	7.8	衣浦東部	○	366	33.3	183	16.6
津島	○	225	32.1	65	9.3	西尾	△	64	12.8	33	6.6
師勝	△	102	25.5	44	11.0	豊田市	○	249	31.1	83	10.4
一宮		156	9.8	73	4.6	加茂	△	57	19.0	6	2.0
春日井	○	304	33.8	155	17.2	豊橋市	△	288	24.0	152	12.7
江南	△	70	11.7	21	3.5	豊川	△	191	21.2	58	6.4
半田	△	73	12.2	89	14.8	新城		13	6.5	8	4.0
知多	△	153	21.9	86	12.3						

△ は今週注意報が出ている保健所です。

○ は今週警報が出ている保健所です。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによるインフルエンザの流行発生注意報は保健所（市）定点当たり 10 人を越えた場合に、また、流行発生警報は 30 人を越えた場合に発生し、10 人を下回るまで継続します。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。

定点の先生方からのコメント

尾張西部地区

- 病原性大腸菌O1 10歳男、10歳女、25歳女、29歳女
病原性大腸菌O18 33歳女、1歳女、4歳男、16歳女
病原性大腸菌O153 2歳男
便ロタウイルス 子供5名
便アデノウイルス 子供6名、大人1名
インフルエンザが急増しました。
【尾西市 城後小児科】
- 感染性腸炎まだ多いです。
インフルエンザ18人と増えてきました。全てA型 9人はワクチン接種済
9人のうち2人が1回接種、7人は2回接種
【一宮市 あさのこどもクリニック】
- インフルエンザは全てA型 1名ワクチン接種したが罹患
【一宮市 後藤小児科医院】
- インフルエンザAが散見されます。
感染性胃腸炎も依然つづいています。
【一宮市 田中内科小児科医院】
- アデノウイルスによる扁桃炎がまだ多いです。
【稲沢市 稲沢市民病院】
- インフルエンザの流行がはじまりました。
【犬山市 武内医院】
- インフルエンザが増加してきました。(計12名 すべてA型)
【江南市 みやぐちこどもクリニック】
- A型インフルエンザ 26名(男12、女14) そのうちワクチン接種者 12名 始めの
症状 例年になく軽いものが目立ちます。検査でインフルと思う例もあり。
水痘、溶連菌 続発中
【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】
- インフルエンザが増えて参りました。A型が主です
【春日町 丹羽医院】

尾張東部地区

- 水痘が多い。
A型インフルエンザ9例(うち、3例はワクチン接種済)
B型インフルエンザ1例
【瀬戸市 津田こどもクリニック】
- インフルエンザ増えてきました(これまでは全てA型です)。
アデノウイルス感染症 幼児で多くみられます(咽頭結膜熱 1例あり 10ヶ月女児)。
その他、水痘、溶連菌感染症 散発
マイコプラズマ感染症 少し目立たなくなりました。
【尾張旭市 医療法人誠和会 佐伯小児科医院】
- 7名ともA型インフルエンザ。
【豊明市 豊明団地診療所】

-
- インフルエンザA型 28例(9例はワクチン 済み)
B型1例(ワクチン 済み)
【春日井市 朝宮こどもクリニック】
 - インフルエンザA抗原が増えました。
【春日井市 かがわ北病院】
 - インフルエンザBがはじめて出ました。
点滴を要するような重症の感染性胃腸炎が多いように思います。
【春日井市 竹内医院】
 - インフルエンザA型(のみ)出してきました。
感染性胃腸炎多いです。
【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】
 - インフルエンザ筋炎 4歳女子1例
アデノ、ムンプス重複感染1例
ムンプス、水痘重複感染1例
【小牧市 志水こどもクリニック】
 - インフルエンザが増えている。(ほとんどA型)
軽いインフルエンザ脳症あり(B型)。
【小牧市 小牧市民病院】
 - インフルエンザA 7名
【半田市 医療法人林医院】
 - インフルエンザ 6名 全てA型
【南知多町 医療法人大岩医院】
 - 今週のインフルエンザはすべてA型でした。
【東海市 小児科ハヤカワ医院】
 - インフルエンザ流行中(すべてA型)
胃腸炎もはやっています。
【大府市 まえはらこどもクリニック】
-

西三河地区

- 2歳男 アデノウイルスイムノカードST(+)
1歳男 ロタウイルス抗原(+)
5歳男、2歳男、4歳女 溶血連鎖球菌感染症 Strept(+)
9歳女 カンピロバクター腸炎(+)
5歳女、6歳女、10歳男、6歳男、25歳男、5歳男 インフルエンザA(+)
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】
- ワクチン接種済は7名中2名でした。
【豊田市 わかぞの東洋クリニック】
- 1歳女 病原大腸菌O1
【豊田市 すくすくこどもクリニック】
- 9歳女 病原性大腸菌O15(+)
【岡崎市 花田こどもクリニック】
- 1歳女、3歳男 病原性大腸菌O1 VT(-)
1歳女 病原性大腸菌O125 VT(-)
8歳男 イムノカードST アデノウイルス(+)
【岡崎市 にいのみ小児科】

-
- 4歳男 病原大腸菌 O25
インフルエンザ 全てA型 ワクチン接種者 1/3位
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】
 - インフルエンザA型 8名 (2名家族内発症、ワクチン接種済み)
ラピッドラスタFluAB A(+)
【岡崎市 永坂内科医院】
 - インフルエンザ 15例全てA型でした。
【岡崎市 栗屋医院】
 - A型 2名 娘から父親への感染
【岡崎市 村山医院】
 - A型インフルエンザ増えてきました。
【碧南市 永井小児クリニック】
 - キャピリアFluA(+)17例、ロタ(+)1例
【刈谷市 田和小児科医院】
 - インフルエンザAが流行し始めました。
【刈谷市 まついこどもクリニック】
 - インフルエンザA型 81名、インフルエンザB型 1名
【知立市 宮谷クリニック】
 - インフルエンザA 7名(全てワクチン未接種)
【西尾市 やすい小児科】
 - インフルエンザはすべてA型
4歳男、7歳男 アデノウイルス感染症
5歳男 病原性大腸菌O1 VT(-)+カンピロバクター
11歳女 病原性大腸菌O1 VT(-)
【幸田町 とみた小児科】
 - マイコプラズマ肺炎 2歳女
インフルエンザ患者がみられるようになりました。
【三好町 三好町民病院】
-

東三河地区

- インフルエンザAが少し流行しています。
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】
 - インフルエンザ全てFluA(+)
相変わらず溶連菌感染、水痘が目立っています。
【豊橋市 あずまだこどもクリニック】
 - 全員インフルエンザA 15名中ワクチン未接種 10名でした。
【豊橋市 おだかの医院】
 - 相変わらずA型インフルエンザが見られます。
60例中 10歳から19歳までが19例、20歳以上が13例でした。
予防接種済みが7例でした。
【豊橋市 医療法人羽柴クリニック】
 - インフルエンザ増加(このうち数例、ワクチン接種例あり)
【田原市 かわせ小児科】
-

一～三類感染症の発生状況

— 愛知県（名古屋市を除く。）—

● 腸管出血性大腸菌感染症

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	菌型等	備考
*	豊橋市	27	女	12/10	12/12	12/17	0157 VT1(+) VT2(+)	平成15年 52週報告分

四類・五類（全数把握）感染症の発生状況

— 愛知県（名古屋市を除く。）—

- 後天性免疫不全症候群 3 例
(無症候性 3 例、推定感染経路:性的接触 3 例、推定感染地域:国内 3 例)
- 梅毒 1 例 (早期顕症Ⅱ期)
- つつが虫病 1 例
- ウイルス性肝炎 1 例 (B型、推定感染経路:性的接触 2 週報告分)

第52週(15年12月22日～12月28日)の4類感染症 (全国)

● 小児科定点報告疾患

インフルエンザの定点当たり報告数は第46週頃より徐々に増加が認められ、第52週は流行開始の基準値としている1.0を上回った。都道府県別では山形県(9.8)、群馬県(9.1)、福島県(9.0)が多い。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は第29週をピークとし、その後減少し続けた後、第43週から再び増加傾向が認められており、第52週も増加した。第52週までの累積定点当たり報告数の過去10年間の平均と比較して、3倍を示す大きな流行となっている。都道府県別では和歌山県(2.6)、山形県(1.6)が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は第34週から増加傾向が認められていたが、第52週は減少した。過去5年間の同時期(前週、当該週、翌週)と比較してやや多く、都道府県別では鳥取県(4.3)、山形県(3.1)、富山県(2.9)が多い。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は第43週から増加していたが、第52週は減少した。過去5年間の同時期と比較してやや多く、都道府県別では大分県(40.0)、宮崎県(28.9)が多い。水痘の定点当たり報告数は第41週から増加しており、第52週も増加した。都道府県別では新潟県(5.6)、熊本県(5.2)が多い。風疹の定点当たり報告数は微増し、都道府県別では大分県(0.7)が全国の報告数の約半数を占めている。RSウイルス感染症の報告数は、34都道府県(0の報告も含む)から合計434例であった。

● 基幹定点報告疾患

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は著減して0.24で、都道府県別では岡山県(2.0)、大阪府(1.2)が多い。

(Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋)

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供)

詳細は感染症情報センターのホームページ

(<http://idsc.nih.go.jp/kanja/index-j.html>)の感染症発生動向調査週報をご覧ください。

